

一粒の涙

満天の星

〈新連載〉

〈第一話〉クリスマス・プレゼント

イラスト：藤崎典子

本気になりそうだな……。右子は、白いダブルベッドの上で、傍らに眠る聡の横顔をぼんやりと眺めながらそう思った。聡の向こう側には小さな窓。その窓からさしこむ朝の光が聡を照らす。栗色の髪。細い顎のライン。ジムで鍛えたという引き締まった身体。右子は、四歳年下の聡のすべてを眩しく感じると同時に、この朝の光の中で自分を見られるのは嫌と思った。

これまで聡とは、夜の淡い光の中でしか会ったことがない。彼女と聡は、「キャバクラ嬢」と「常連客」という関係だからだ。しかも聡は、右子のお客ではない。まだ二十歳で、三ヶ月前に入店したばかりの美香のお客なのだ。昨夜、美香はまたま休暇をとっていた。そこで右子が、聡の相手をしたのである。客席で、聡はこう誘った。

「この近くに、シャンパンが飲める、白くて綺麗なホテルがあるんです。一緒に行きませんか？」

普段なら断るところだが、若くて美しい聡の魅力に逆らえず、いついて来てしまったのだ。



もう十二月の初旬。朝の九時。だといふに、風が冷たい。目の前を過ぎようとしたタクシーを止め、ひとり暮らしの高層マンションへと帰った。整理された自分の部屋にたどりつく。右子はいつもホットとする。冷蔵庫から冷えた缶ビールを取り出し、アジアン・テイストのインテリアでそろえたリビングのソファにかけビールを飲みながら、昨夜のことを思い出した。ホテルでメールアドレスを交換しながら、彼

幸い、まだ聡は眠っている。右子は、床に脱ぎ捨ててあった黒いワンピースを身につけると、部屋の隅にある小さな洗面台に向かった。軽くカールした黒髪。長身で細身のプロポーションは、自分でも気に入っている。しかし、昨夜、三時過ぎまで飲んでいたら、ろろが、肌が荒れている。ファンデーションを塗りながら、二十八歳という自分の年齢を恨めしく思うのだった。口紅を塗り終え、右子はベッドサイドにある小さな用紙に、ありがと。楽しかったです。とメモを残し、

はこう話したのだ。

「右子さんは、憧れの人だったんです。必ず、メールしますから」

そんな言葉。今まで何人のお客に言われたかわからない。そして、その手の言葉に一度もグッときたことはない。しかし、聡のは違っていた。彼は、ぼんやりとシャンパングラスを見ながら、淡々とそう言った。その言い方は、熱のこもった口説き文句よりも、心にひびくものだった。言葉ひとつで、本気になってしまふなんて。今まで、恋愛なんて後回しにしていたのに……。

右子は、二年前まで、ミュージカル女優を目指していた。しかし、何度オーディションを受けてもいい結果が出ない。そんな時に、街中で今のお店にスカウトされたのだ。「君ならナンバーワンになれる」「ミュージカルがダメなら、夜の仕事でナンバーワンになろう。そう思っただけの世界に飛び込んだのだが……。学生時代からつきあっていた彼は、理解できないと言ひ、去って行った。それでも、自分が輝ける場所が欲しかった。しかし、いまだにナンバーワンになれたことはない。いつも二番目。毎月、必ず自分より稼ぐ女がいる。最近では、美香がそうだ。彼女は、天然のかわいらしさがお客に受けて、入店してすぐにナンバーワンになった。悔しかった。

気がつくとも、もうビルはすっかり空になっていた。右子は、ふと、聡にメールを送りたくなつたが、その勇気はない。彼メールをくれないかしら。そう思いながら、ピンク色の携帯を弄ぶしかなかった。

その翌日のこと。いつものように夕方五

時にお店に行く。と、事務室の中から、美香の華やかな声が聞こえてきた。

「私、結婚するんです」

だから、今日でお店をやめさせてほしい。そうオナに直談判をしていた。五十代の中年太りのオナは汗をかき、必死で彼女をひきとめようとしている。すると美香は、

「やめると言ったら、やめるんです！」

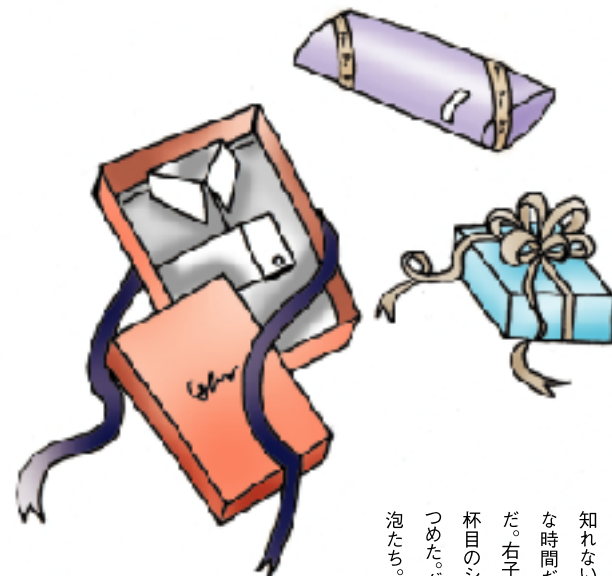
そう泣き喚くと、一目散にドアの向うへと走り去ってしまった。ここの光景は、数え切れないほど見てきたので、まったく驚きはしなかった。けれど、ひとつの思いが胸を曇らせた。美香の結婚相手は聡なのではないか、という思い。案の定、その夜から、聡はまったくお店に姿を現さなくなった。

それから二週間。相変わらず、聡からのメールはない。苛立ちを感じながらも、「今日こそメールが来るのでは……。」という期待を捨てられない。そんなむしゃくしゃした気分をどうにかしなくなり、お昼過ぎにベッドから起き出すと、歩いて十分ほどのカフェへと向かった。休日にこの店でビールとバスタを楽しむのが、右子のさやかなリフレッシュ法なのだ。

いつものように店に入っていくと、右子だたが思わず立ち止まってしまった。手前のショーウィンドー。クリスマスの装飾が、あまりにも鮮やかだったからだ。店内に入り、ふらっと見ていると、茶色いカシミアのセーターが目にとまった。聡に似合いそう。でも十五万円もする……。一瞬迷ったが、結局、カードで購入し、金色の紙で包装してもらった。そう。メールしてみよう。クリ

スマスイブを一緒に過ごしたいって、メールをしてみよう。彼が、美香と過ごさだううことは、もちろんわかってる。だけど、ちょっと一度くらい、自分の思いを伝えたい。そう思うと、いてもたってもいられなくなり、プティックの前で聡にメールを送った。しかし、翌日まで待っても、返事はない。しかも、今日は土曜日だからお店は休み。午後の二時に起きたものの、パジャマ姿のままぼんやりとテレビでも眺めるしかなかった。夜の七時をまわった頃だろうか。たつたひとりの部屋から、抜け出したくて仕方なかった。だって、今日はクリスマス・イブ。そして、二十九歳の誕生日でもあるのだから……。

聡に会いたい。そう考えると、いてもたってもいられず、黒のセーターと革のパンツに着替え、ブルンを羽織ると、無意識に、聡と過ごした場所へと向かっていた。



「二十四年間生きてきて、楽しいと思っただけで、一度もない」

今思えば、その言葉に、共感したのかも知れない。そしてあの夜、私と彼は、わずかな時間だけれど、確かに心を温め合っただ。右子は、そう自分に言い聞かせると、四杯目のシャンパンを注ぎ、じつとグラスを見つめた。グラスの中を、シワと昇っていく泡たち。その泡たちが、涙の向うでゆらゆら揺れては、消えていく。その泡は、これまでの私なのか、これからの私なのか、それとも聡……。そう思いながら、ほんのりと微笑むのだった。

作家・恋愛カウンセラー。恋愛サイト「Heart Junction」http://www.heart-junction.com主宰。20代で離婚を経験。その後、多数の民間団体で心理学及びカウンセリングを学び、独立。オリジナルの「ハッピー恋愛の法則」を取り入れたアドバイス型カウンセリングは幅広い層から支持を得ている。恋愛メルマガ「恋マガジン Women's Box」で恋愛ノウハウを無料提供するほか、講演、テレビ、ラジオ、雑誌でも幅広く活躍中。MAIL: dokidoki@heart-junction.com

安藤 房子
(あんど うふさこ)

HEARTをケア。

恋愛、結婚、仕事のトラブル……。ひとりで悩んでいるとめげちゃうことってありませんか？ そんなときはメール・カウンセリングを。きっと力になれるはずです。

- Heart Junction -
ハートとハート つなげましょ

♡♡♡ - Heart Junction -

*メール・カウンセリング 1回2000円。
*じっくり相談できる3回コース5000円もあります。
*電話でのカウンセリングも行なっています。
*くわしくはメールまたは電話でお問い合わせください。
http://www.heart-junction.com TEL. 045-974-2580

ボディにCURE!

顔、ボディ、スタイル……。女のコンナだれだって、もっと自分に自信をもちたい！ からだ本来のキレイと元気をひきだしてあなたの恋を応援します。

CURE+ キュア整体ルーム

*料金＝初回6000円／2回目以降4500円
*体質と目的に応じたオーダーメイドの施術です。
*冷え性・むくみなど体質改善もおまかせください。
http://www.cure-seitai.com
TEL. 03-5485-0211
受付時間10:00～20:00／日曜定休

〒100-0002 渋谷区渋谷3-16-1 堀ふしビル2F
渋谷駅新南口より1分